

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和2年1月9日

事業所名:児童発達支援事業所P-S

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	個別、集団に応じた個室を提供しております。	「はい」26名。 ・個室になっている。 ・スペースは十分確保されていると思います。	現状維持できるよう努めていきます。
	2	職員の適切な配置	個別療育は1対1、集団療育は2～3名に対し職員2名の配置をしております。	「はい」25名。「どちらともいえない」1名。 ・1対1など少人数。 ・適切です。	現状維持できるよう努めていきます。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・身体に障害もしくは、階段の上り下りが難しいお子さまには1階の和室を利用していただいております。 ・個室部屋、トイレ、洗面所などにキャラクターを貼り、子ども達に分かりやすく部屋を知らせています。 ・玄関の段差には、足置き台を設置し高低差を小さくしています。 ・階段には手すりを設置しています。	「はい」19名。「どちらともいえない」3名。 「いいえ」2名。「わからない」2名。 ・2階建ての住宅なので仕方ないと思います。 ・バリアフリーではない。 ・配慮されています。	構造上玄関までの段差や階段等の改築予定はありませんが、危険を伴う箇所には、職員も付き添い安全に配慮していきます。また、聴覚障害をおもちのお子様が利用される場合は、光で知らせるなどの配慮を考えていきます。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	玩具に関しては、玩具を口に入れた場合など汚れた時は、療育後洗濯や洗浄、消毒を行っています。また、定期的に玩具の洗浄、日光消毒も実施しています。机や椅子、マットなどは毎日の掃除に加え週に1回消毒する日を設けています。	「はい」26名。 ・新しくてきれい。 ・陽当たりもよく冷暖房もついてて、床にマットも敷いてあって暖かみある部屋。活動に合っている。	引き続き環境整備に努めていきます。
業務	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	全職員での、朝の会議や週1回の職員会議を利用し気づいたことを話し合っています。		引き続き検討事項があれば、全員で話し合いを行っていきます。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	税理士、社労士から指導、助言を頂いております。		必要に応じて外部からの評価をもとに改善に努めてまいります。また、第三者評価機構にもお願いをしていく予定にしています。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
改善	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・個別訓練利用者が多いため、日々の訓練での様子を記録し、行動、言語、コミュニケーションなどの変化をまとめ、評価し合ったり、アイデアを出し合ったり職員間同士での学びの場を設定しています。 ・職員数が少ないため、平日に研修へ参加することが難しいのが現状です。休日を利用して研修への参加を積極的におこなっています。		日々自己研鑽に努めてまいります。また、研修費の補助の拡大も検討していく方向で考えています。
	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	家庭や園での様子を伺い、お子様の成長の確認と課題の抽出をおこない、児童発達支援計画に反映させています。	「はい」26名。 ・要望に応じてくれる。 ・課題にあった計画がしっかり作成されています。	
適切な支援の提供	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	週2回の利用を保証しています。お子様の状況や保護者様のニーズに合わせて個別療育、集団療育をご利用いただき、一人一人に合わせた児童発達支援計画の作成をおこなっています。		引き続き、家庭や園での様子等アセスメントをおこない児童発達支援計画に反映させていきます。また、必要に応じて園の先生と情報を共有していくことで統一された支援や園生活の中で生かしていける力を養っていくことができるよう努めてまいります。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	ニーズに応じた目標をご家族からの希望とこちらからの提案等をすり合わせながら一緒に考えさせていただいています。目標に到達するまでに必要な力を、スモールステップで達成していくことができるよう細分化した目標を設定しています。	「はい」26名。 ・わかりやすい。 ・必要な項目が適切で具体的な支援内容が設定されています。	
適切な支援の提供	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	目標に沿った課題の設定や環境調整をおこなっています。	「はい」26名。 ・できている。 ・行われています。	お子様一人一人に応じた課題の設定を引き続き行います。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	集団プログラムに関わらず、個別課題での困難事例等互いに相談し、次回の療育に活かしています。		引き続き、職員間でアイデアを出し合い支援力を高めていきます。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
(続き)	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇時は、兄弟も含め生活時間が変わる方がいらっしゃいますので、随時相談に応じ利用時間の変更等可能な限り希望に応じています。また、病気や園の行事などでお休みになった場合、定員に空きのある日で予定があれば振り替え日を、希望される家族に連絡させていただいています。		可能な限りご要望に沿えるよう努力いたします。難しい場合は、他のご提案など対応させていただきます。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	活動プログラムが固定することはありません。児童発達支援計画の目標に沿った課題設定をおこなっています。課題が達成すれば次のステップに進んでいきます。達成しそうでない課題であれば、苦手意識がつく前に課題を見直し、理解が進みやすい方法へ改善しています。	「はい」26名。 ・様々な課題を用意してくれている。 ・毎回違うことをしたり、その子に合わせてプログラムされている。	お子様の発達状況に応じた課題の設定を引き続きおこなっていきます。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	集団活動では、1つ1つの課題で想定される子どもの動きを話し合い役割を確認しています。個別療育場面でも、補助が必要な時は職員間で役割の確認を事前に行い、環境調整をおこなっています。		引き続き、課題の量や質をお子様の発達段階に合わせて調整していきながら、成功し褒められることが多くなるよう支援のプログラムを確認し実施していきます。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	集団療育終了後、職員間で振り返りを行い、次の活動プログラムや支援方法につなげています。また、個別療育時も同様に支援方法の相談、共有を図っています。		
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個別療育では、課題ごとに何回行い何回成功したのか等を記録し、どの程度理解が進んでいるのか評価をおこない支援しています。記録をもとに支援の検証や改善を職員間で協議し次の支援へ活かしています。また、利用された時の記録は、次回利用時に読んで頂き、お子様の様子の確認をして頂いています。		
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	基本は、相談支援事業所のモニタリング時期に合わせて半年に1回児童発達支援計画の評価、見直しをおこなっています。		

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	可能な限り参加させていただいております。職員数が少ないため、担当者が参加させていただけない時は、事前に相談支援事業所などから聞き取りを行った上で、書面で必要な情報や評価などの提供をいたしました。		可能な限り参加させていただきます。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	—		—
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	—		—
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	療育場面を見学に来てくださる先生や園での様子について保護者を通して伝えてもらったり、手紙で様子をお知らせしてくださる先生がいらっしゃいます。療育で実施している事を、園でも実践して下さるなど支援の統一を図ったり、情報を共有したりしています。また保護者様から依頼があれば園や病院などに療育での支援状況などを情報提供書として作成させていただきました。学校からの依頼に応じて、入学前の支援者会議に出席したり、引き継ぎ書を作成したりさせていただいております。		引き続き、関係機関や保護者様からの要望や依頼に応じて対応していきます。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	児童発達支援のみの運営のため、放課後等デイサービスからの円滑な移行支援には介入していません。小学校入学への移行支援は、保護者様、相談支援事業所、園の先生などからの要望に応じた対応をさせていただきました。		引き続き、関係機関や保護者様からの要望に応じて対応していきます。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	今年度開催された児童発達支援センターの研修会に参加させていただきました。また、全職員が自身のスキルアップのために様々な分野の研修に積極的に受講しています。		児童発達支援センターや発達障害者支援センターなどから研修案内等あれば可能な限り受講していきたいと考えています。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	利用されている方は、並行通園されている方が多いです。毎日通園ではなく、園での生活を基本とされていることから現状のところ実施予定はありません。	「はい」9名。「どちらともいえない」4名。 「いいえ」4名。「わからない」9名。 ・保育所に通園している。 ・個別なのでわかりません。	保護者様からの要望等があれば検討していきます。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域住民の方を招待するなど積極的なアプローチはおこなっておりませんが、行政や子育て広場、他事業所、園の先生など多くの方が見学に来て下さっています。		引き続き、要望に応じて見学の受け入れをおこない、開かれた事業所の運営をおこなっていきます。
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用者負担に関しては、変更があるときは書面の配布と併せて口頭で説明をさせていただいております。支援内容に関しては、担当職員と毎回振り返りをおこない、活動内容の記録を次回利用時に紙面で確認していただき、口頭説明と紙面での説明を併せておこなっております。	「はい」26名。 ・できている。 ・丁寧な説明です。	引き続き専門用語等を用いず分かりやすい丁寧な説明を心がけていきます。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	児童発達支援計画説明時に、どのような支援や課題の設定をおこなっていくのか説明し、同意いただいてから支援を実施しています。	「はい」26名。 ・できている。 ・毎回どのような事をしたのか丁寧に説明がされています。	引き続き専門用語等を用いず、分かりやすい丁寧な説明を心がけていきます。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングといった言葉を使って保護者の方に説明はおこなっていませんが、ご家庭で負担にならないできそうな所から、個々に応じたご提案をさせていただいております。子育てをされている中で日々困られていることや、悩まれていることがあれば、まずは事業所で練習をおこない、方法をお伝えして家庭でも取り組んで頂いております。	「はい」16名。 「どちらともいえない」2名。 「いいえ」3名。 「わからない」5名。 ・特に聞いていない。 ・行われている。	引き続き、子育てをされている中での対応方法の悩みや困られていることがあれば、課題の整理等一緒に考え支援方法のアドバイスをおこなわせていただきます。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	利用後の振り返りを徹底しています。発達に合わせて取り組んでいる課題の状況や、ステップアップにむけてどのような支援をしていくのかなどお伝えさせていただいています。	「はい」26名。 ・記録書を通じて、発達の状況や共通理解できている。	引き続き丁寧な説明を心がけておこなっていきます。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	週1～2回利用される方が多いため、日々の変化に気づきやすく、保護者の方同伴で利用されている方は、その都度話をしながら進めています。保護者同伴でない集団や個別の方は、終了後に話をする機会を設けています。その都度相談に応じた対応方法などをお伝えさせていただいております。	「はい」23名。 「どちらともいえない」1名。 「いいえ」2名。 ・面談は支援計画作成の時のみ。 ・おこなわれている。	相談しやすい環境を整え、適切な助言ができる説明力や対応力を身につけていきます。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	住んでおられる地域が広範囲であり、個人情報の取り扱いから保護者間での連携支援は積極的に介入はしておりません。今年度は、現在利用されている方と小学校へ入学された昨年度利用されていた方を対象としたバーベキューを催しました。たくさんの方が参加して下さい、父母間での交流を図りました。	「はい」14名。 「どちらともいえない」4名。 「いいえ」1名。 「わからない」6名。 ・保護者同士知り合う機会がない。 ・今年あった家族バーベキューを来年もお願いしたいです。	保護者の方より要望をお伺いする機会を設けていこうと考えています。自由参加の保護者交流を目的とした場の企画も検討していきたいと考えています。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情があった場合は、苦情マニュアルに沿って対応をしていきます。	「はい」15名。 「どちらともいえない」2名。 「わからない」7名。 ・苦情が今のところないので分かりません。 ・苦情がないので分からない。 ・そのような例がない。	迅速かつ適切な対応をこころがけていきます。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	保護者への伝達方法は、利用日が混乱しないよう必要な場合はスケジュールを紙で知らせるようにしています。また、利用日の変更があった場合に前日や当日にお電話をして確認するなど細かい配慮をおこなう場合もありました。お子様への支援としては、PECSを取り入れたり、視覚的にわかりやすいようスケジュールで知らせたり個々の特性に合わせた配慮を心がけています。	「はい」24名。 「どちらともいえない」1名。 「わからない」1名。 ・記録書で教えてもらえる。	分かりやすい提示の仕方を心がけます。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	お子様一人一人活動内容や課題が異なっていることや、個人情報の取り扱いに注意を払っているため、個人が特定されやすいホームページでの掲載はおこなっていません。また、定期的な会報の発行もおこなっていません。研修会、行事の時は、ホームページを活用しております。連絡事項がある場合は書面と口頭で説明させていただくよう徹底しております。	「はい」16名。 「どちらともいえない」2名。 「わからない」7名。 ・会報はない。 ・HPもあまり更新されていない。	定期的な会報等の発行は現時点では考えておりません。お知らせしないといけないことは、来所時に保護者一人一人に個別で書面と口頭でお伝えさせていただきます。研修会や行事などのお知らせ等は引き続き、ホームページでお知らせしていきます。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	利用されている利用者の個人情報には十分注意して取り扱いをおこなっています。職員間での配慮する点についても確認をおこない、共通理解のもと対応しております。	「はい」23名。 「わからない」1名。 ・とてもしっかりしている。	引き続き十分注意して対応していきます。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアルは策定し、児童発達支援計画にも盛り込んでいます。民間のセキュリティ会社と契約を結んでいます。また、マニュアルはリングで吊るし、玄関入り口の見えやすい位置に掲示しています。	「はい」19名。 「どちらともいえない」3名。 「わからない」3名。 ・詳しく知らない。	職員間での周知徹底を図り、必要に応じて保護者に説明させていただきます。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・年に1回の実地訓練と机上での話し合いを行っております。 ・玄関フロアに緊急時対応マニュアルを掲示しています。 ・児童発達支援計画時に、避難所の確認と合わせて緊急連絡先の確認も行っています。	「はい」9名。 「どちらともいえない」3名。 「わからない」11名。 ・避難訓練をしていると聞いたことはない。	引き続き、児童発達支援計画の説明時に緊急時の連絡先の確認も合わせておこなっていきます。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待研修に参加し、事業所内研修も実施しました。		虐待研修への参加や事業所内研修を引き続きおこなっていきます。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束はおこなっておりません。ただし、療育中に他児に危害を加える行動、自傷行動などの危険を伴う行動については、事前に保護者と対応を協議の上、危険な行動を制止することがあります。		引き続き、身体を拘束することなく支援にあたります。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事の提供はおこなっておりませんが、事業所内でお菓子を配布、食すことはあります。事業所内で食す時は保護者に確認をおこない食すようにしています。また、初回の利用契約時にアレルギーの有無の確認をおこなっています。契約後アレルギーなどの疾患を発症した場合は、保護者より教えて頂いた内容を、職員間で共有し除去しています。療育の中でおやつを設定する場合は自宅から持参して頂いた物を使用しています。		食物に関わらず、アレルギーの有無の確認を利用開始前には必ず聞くよう引き続き配慮していきます。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットシートに関する報告書を作成し、職員内で共有し改善に努めています。また、危険な箇所があった場合には迅速に修復するよう努めています。		色々な場面で気づきを多く持てる職員の育成に努めていきます。